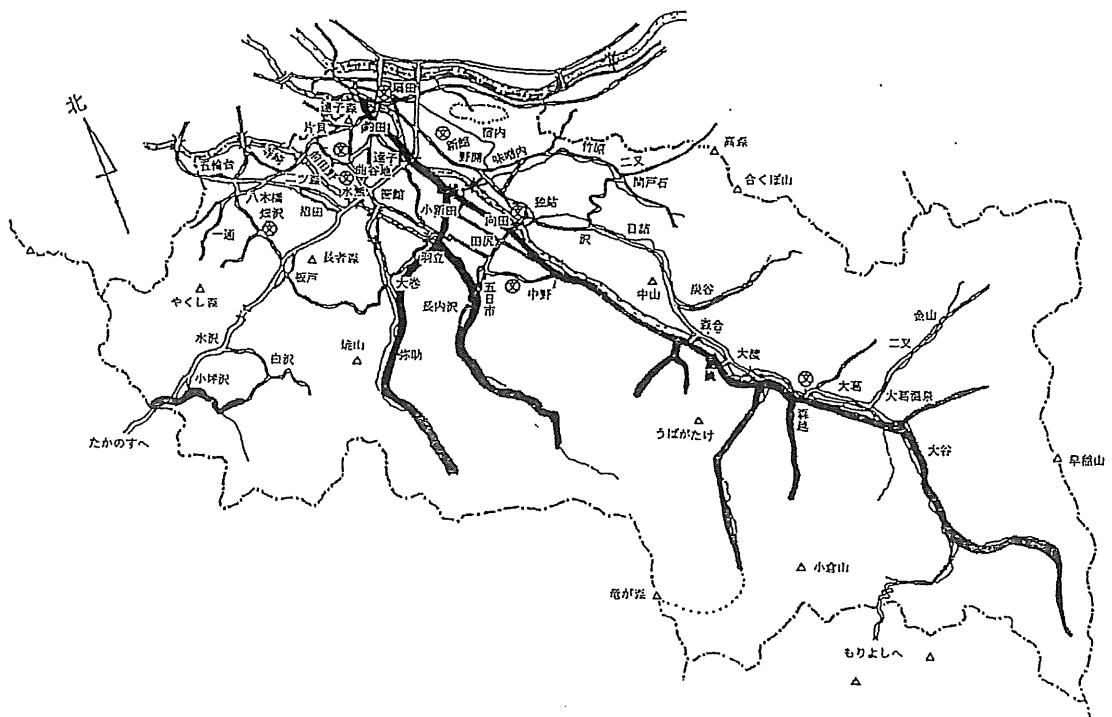


## 森林軌道路線図（扇田営林署管内）



林の森林軌道として、大きな役割を果たした。木材運搬だけでなく地域の足としても利用された。その後、昭和40年（一九五六）になつてトラックの普及、林業の衰退などから管内の全線が廃止となつた。現在は、以前の面影はないが一部改修し農道や生活道路として活用しているところもある。

扇田営林署と森林 森林は、国土の保全、水源の涵養、自然環境の保全木材の生産など生活と深く結びついている。当地区の国有林の保全と営林を行う扇田営林署が設置されたのは明治九年と歴史は古い。昭和30年町村合併により所在地を扇田字中島に変更、昭和40年新庁舎建設。平成10年、大館営林署に統合され、扇田森林管理センター設置となる。平成13年、米代東部森林管理署に統合された。

営林署の事業は、国有林の収穫、販売、製品生産事業、国有林の治山事業などがある。造林事業では、新種、天然下種、ほうが、保育がある。保育がある。治山事業では、林道及び貯木場の新設、改良修繕がある。治山事業では、保安林及び生活環境保全林の下刈りがある。

扇田営林署では、当初作業員を多数雇用し担当区置いて管理していたが、のちに造林作業をほとんど造林業者へ委託するようになつた。造林作業は、植林作業と刈り払い（下刈り）、除伐、間伐、主伐作業がある。大変手間がかかり若木の生育に年数もかかり大変な仕事であつたが、最近は機械化されて仕事の能率が上がるようになつた。かつては、スギの直径も高値で私有地の造林作業も需要が多くなつたが、最近は安い外材や合板におされ需要も減つてきた。しかし、近年環境問題への関心の高まにより、自国内森林を育成し、木材を生産することが注目されている。

林の森林軌道として、大きな役割を果たした。木材運搬だけでなく地域の足としても利用された。その後、昭和40年（一九五六）になつてトラックの普及、林業の衰退などから管内の全線が廃止となつた。現在は、以前の面影はないが一部改修し農道や生活道路として活用しているところもある。

扇田営林署と森林 森林は、国土の保全、水源の涵養、自然環境の保全木材の生産など生活と深く結びついている。当地区の国有林の保全と営林を行う扇田営林署が設置されたのは明治九年と歴史は古い。昭和30年町村合併により所在地を扇田字中島に変更、昭和40年新庁舎建設。平成10年、大館営林署に統合され、扇田森林管理センター設置となる。平成13年、米代東部森林管理署に統合された。

営林署の事業は、国有林の収穫、販売、製品生産事業、国有林の治山事業などがある。造林事業では、新種、天然下種、ほうが、保育がある。保育がある。治山事業では、林道及び貯木場の新設、改良修繕がある。治山事業では、保安林及び生活環境保全林の下刈りがある。

扇田営林署では、当初作業員を多数雇用し担当区置いて管理していたが、のちに造林作業をほとんど造林業者へ委託するようになつた。造林作業は、植林作業と刈り払い（下刈り）、除伐、間伐、主伐作業がある。大変手間がかかり若木の生育に年数もかかり大変な仕事であつたが、最近は機械化されて仕事の能率が上がるようになつた。かつては、スギの直径も高値で私有地の造林作業も需要が多くなつたが、最近は安い外材や合板におされ需要も減つてきた。しかし、近年環境問題への関心の高まにより、自国内森林を育成し、木材を生産することが注目されている。

## 比内町の保有形態別森林面積と林業純生産額

年 度	総 数 (ha)	国有林 (ha)	民有林 (ha)		林業純生産額 (百万円)
			公有林	私有林	
平成 9年度	1 6, 5 5 7	8, 8 6 3	3 9 7	7, 2 9 7	5 0 5
1 0年度	1 6, 5 6 7	8, 8 6 3	4 2 2	7, 2 8 2	3 5 9
1 1年度	1 6, 5 4 9	8, 8 4 1	4 2 6	7, 2 8 2	3 6 3
1 2年度	1 6, 5 5 3	8, 8 4 2	4 2 2	7, 2 8 9	3 6 3
1 3年度	1 6, 4 5 3	8, 8 4 2	3 8 6	7, 2 2 5	2 0 9

\*国有林：大部分を林野庁が国有林事業として管理。国が森林所有者である森林及び国有林野法に規定する分集林である森林。

\*民有林：国有林以外の森林。

### 比内町の人工林・天然林別面積の割合

\*人工林66%、天然林34%（国有林）

\*国有林の場合：人工林では針葉樹100%  
天然林では、針葉樹17%、  
混交樹2%  
広葉樹61%で

## 人工林・天然林の面積の変動

年度	人工林 %	天然林 %
S 2 5	2 8	7 2
3 0	3 5	6 5
3 5	4 2	5 8
4 0	4 7	5 3
4 5	5 2	4 8
5 0	6 6	3 4
H 7	7 1	2 9

三林業

比内町の森林の概要 町の総面積二〇五・三九km<sup>2</sup>のうち約八〇%が山林である。保有形態別でみると、別表のように、山林面積一六五km<sup>2</sup>のうち五三・六%が国有林で、私有林が四四・一%、公有林が二・三%となつてゐる。かつて、天然秋田スギやブナを主体にした天然生針葉樹林や広葉樹林が主体であったが、別表のように、国有林を中心に「林種改良」が進み、現在では秋田杉を中心とした天然林は皆無である。比内の最高峰竜ヶ森周辺から北側、中ノ沢辺りまでの稜線を中心に「竜ヶ森風景林」に指定され、スギを中心とした針葉樹とブナの広葉樹の天然生混交林の林相を残している。人工林化が七〇%を越えていいる。人工林化の林種は、ほとんどが生産性の高い杉であり、九七%が木材生産林である。

林業の動向 過去には、前述のように天然林、広葉樹林主体に広大な美林であった。明治40年から大正にかけて糸柄沢国有林、丹内沢国有林、長部国有林の払い下げを受け、軽便軌道を活用し原木輸送し製材業活発の時代もあつた。一方でかなり切りつくされ、戦後は、そのおもかげもなくなつた。現在国有林は、その自然美を保存しながら活用をすすめている。また、国有林野の土木、治山、生産、造林等の諸負事業も多く、分収造林など国有林野の活用も活発、地域振興に寄与している。また、自然の恵みをより生かすため造林を積極的に進めている。また、山の幸であるしたけ、なめこ、山菜なども原木の生産と合わせ、加工施設の導入をすすめている。

\*比内町の森林軌道（大正から昭和にかけて）  
輕便軌道は、大正初期から昭和前半にかけて木材の需要が益すことで、扇田から長部間（大正5年）、扇田から大葛（昭3年）、扇田から長内沢（昭4年）、扇田から丹内（昭6年）扇田から丹内雪沢間と開設され、国有

\*比内町の森林軌道（大正から昭和にかけて）

軽便軌道は、大正初期から昭和前半にかけて木材の需要が益すことに扇田から長部間（大正5）、扇田から太葛（昭3）、扇田から長内沢（昭4）、扇田から丹内（昭6）扇田から丹内雪沢間と開設され、国有